

子共の病氣計りはとこかとふ云物かわかり不申候得は実にく  
御さし申上居候今頃は少しハ宜しく候哉御手しきもは無候へ  
共一筆なり共御しらせ被下度夫に付ても私共ハ極めていそしみを  
こふ尤ニ候半と存居候とふそく御早く御なおり被成候様祈上  
居候先は年甫之御説詞旁御礼迄申上候以上

一月十一日

多き

御兄様

お姉様

80 (明治16年) 1月11日 菊池多き

(前欠)

御安心被下度物ニ候や明冬はお母様御下りの節は甚々見事の御  
品頂き誠に難有誠に私杯エはのそみの御品頂き実なんとお礼申  
上候得て能柄哉実にく難有山々御礼申上候さよう御座候得は  
兄様よりの御伝言実にく有かたく謹て御礼申上候先々お母様  
も大そふ御丈ふにならせられ御下りの後とても御替り無御世話  
被下候得は実におもしろく存居候其御下りの後とても御替り  
無御世話□候得は実にくもうろく存居候其御下りの事に付何程  
か手前かツての物共のおうらみに頼り候半んお祖母様の冬御□  
しに御□□ふかけ上之所より只々申上候間必ずくあしからず  
御召思被下度御願申上候此度まかき様御病氣のよし相達とても